

給排気筒標準設置取付け型紙

延長背面設置給排気筒
取付穴あけ中心

標準設置
給排気筒穴位置

276 (延長背面設置用：延長アダプタ使用時中心位置、背面設置距離105mm)
285 (標準設置用穴位置、背面設置距離20mm)

110

210

169

383

この線を床に合せてください。

給排気筒の取付け(つづき)

延長給排気方式の工事方法

- 標準給排気以外にも排気管や給気管を延長して取り付けることができます。給排気筒の呼び径D40タイプの別売延長セット、給排気管延長アダプタ (UR-CFN) を使用して延長工事を行ってください。
- ストーブについている排気管抜け検知リード線は約2mまで延長できます。それ以上の場合は別売の抜け検知リード線 (FR-1) で延長してください。
- 延長する長さにより、燃焼用送風機の回転数を補正する必要があります。表を参考にして、制御基板上のスイッチを切り替えてください。

延長長さ	スイッチ1	スイッチ2
1m以下(※)	OFF	OFF
1～2m	ON	OFF

※1mを単位

●注意

- 延長配管の長さは2m以下、曲がりは2箇所以下になるように配管してください。それ以上延長しますと異常燃焼することがあります。
- 排気管の取り付けはストーブ本体出口を最も低い位置とし、上り勾配で取り付けてください。下り勾配や凹部になっていますと排気管にドレンがたまり、異常燃焼の原因になります。
- 排気管接続部の全てにストッパーリングの取り付けを確実に行ってください。[E19] を表示し点火できないことがあります。

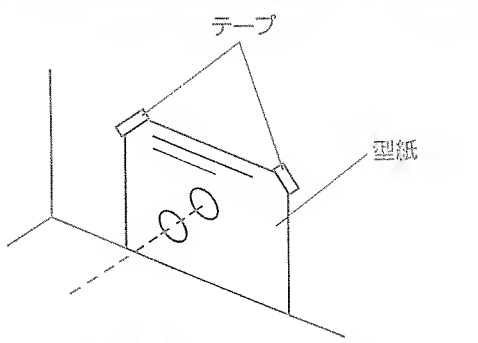
廃棄するときの注意

- ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。

型紙の使用法

1. 型紙の床面を床に合せて壁に貼り付けてください。
2. 給排気筒穴位置に印をつけてください。

●同時に壁固定金具用穴位置にも印をつけてください。



床暖房パネルの敷設(UFH-641UVFのみ)

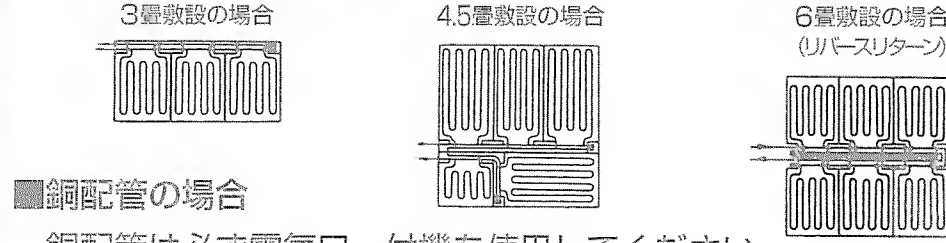
- ストーブと床暖房パネルを接続するホース・管は2.5m以内としてください。
- ストーブの階上階に床暖房パネルを設置しないでください。

ソフトパネルの敷設

- ソフトパネルを使用する場合はソフトパネルに付属している取扱説明書にしたがって正しく敷設してください。
- ソフトパネルの最大接続量は4.5畳までです。
- ソフトパネルには重いもの、テーブル、机などはのせないでください。

金属製床暖房パネルの敷設

- 金属製床暖房パネルは並列回路ですので、敷設は次のように行ってください。
- 詳しくはパネルに付属している取扱説明書にしたがって、正しく敷設してください。



■銅配管の場合

銅配管は必ず電気口一機を使用してください。

■ゴム配管の場合

やむをえずゴム配管にする場合は、次の点に注意してください。

- 接続部分が容易に点検できるようにしてください。
- ゴム管が人にふまれるような部分は、別売部品のツインチューブカバーを使用してください。
- 3年に一度、ゴム管を交換できる設備場所としてください。
- 【ご注意】**
- 使用する関連部材はサンボット純正部品を必ず使用してください。
- 金属製床暖房パネルは並列回路ですので必ず末端はパネル付属の銅キャップまたは別売部品のゴムキャップを使用し、漏れのないように設置してください。
- 最大敷設量はリバースターンで1回路6畳までです。金属製床暖房パネルの温度ムラを少なくするには1回路4畳までで使用するのが最適です。
- 金属製床暖房パネルは付属のねじで固定してください。
- パネルを固定しないと、次のことが発生します。
 - ・接続される配管材に無理な力加わり水漏れが発生する。
 - ・パネルの特性によりそりが発生する。
- 固定しない場合による水漏れ、パネルのそりは保証しません。
- 金属製床暖房パネルは、熱膨張による歪をさけるため、パネルとパネルのすきまは約1～3mm保ってください。
- 金属製床暖房パネル表面に木質およびコルクタイルを使用するときは、床暖房専用の材料を使用してください。(詳しくは床材メーカーにお問い合わせください。)
- 畳の上に金属製床暖房パネルは敷設しないでください。
- 金属製床暖房パネル表面に、陶磁器・タイルは敷設しないでください。

漏れ検査(水圧試験)

すべての接続が終了しましたら、必ず漏れ検査を行い、漏れのないことを確認してください。

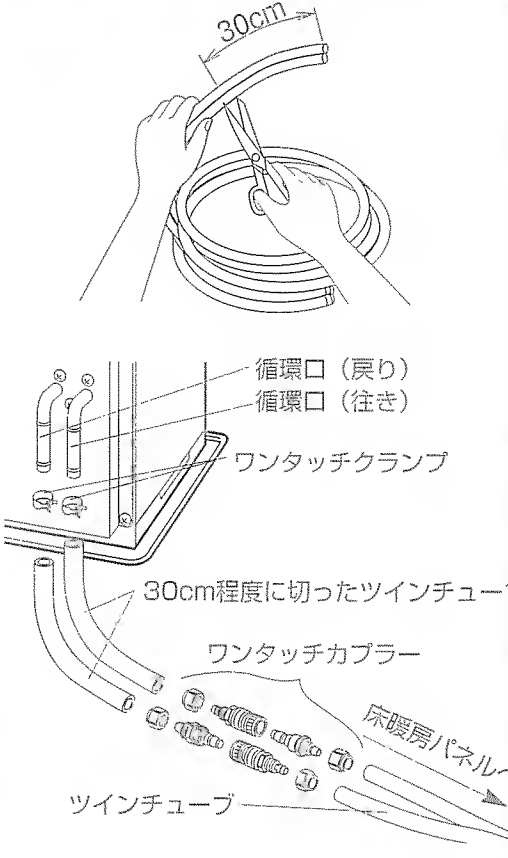
●漏れ検査の条件

床パネル	配管	検査圧力
金属製	銅管	300kPa(3.0kgf/cm ²)
床暖房パネル	ゴム管	50kPa(0.5kgf/cm ²)
ソフトパネル	ゴム管	50kPa(0.5kgf/cm ²)

検査時間：
試験圧力で60分以上放置して、圧力降下が3%以内とする。各配管接続部に漏れがないが目視で確認する。

ツインチューブの接続方法

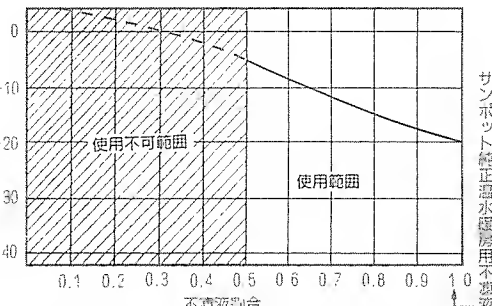
1. 付属のツインチューブを30cm程度に切ってください。
2. ストーブ後面の循環口に切ったツインチューブを差し込み、付属のワッタッチランプをはめてください。
3. ワンタッチカプラーを図のように接続してください。往きと戻りでカプラーを逆に接続しておくこと誤差し防止になります。
4. カプラーはメス側のグレーのリングをずらしながら接続してください。



循環水の補給

不凍液の割合

- 循環水には凍結防止および腐食防止のため、必ずサンボット純正温水暖房用不凍液 (FHF-2K40またはFHF-5K40) を使用してください。
- 他の不凍液を使用すると、配管内部に不純物が付着しストーブの寿命が短くなる場合があります。
- 不凍液に付属のシールは給水年月日を記入し、ストーブの給水扉内側のシール貼付欄に貼り付けてください。
- 不凍液の割合は、各地の凍結温度条件により上の表から求めてください。
- 補充は必ずサンボット純正温水暖房用補充液を使用してください。



不凍液の必要量

なまえ	容量(L)	なまえ	容量(L)
ストーブ本体	1.7	3畳用	3.0
1畳用	0.54	4.5畳用	2.2
半畳用	0.25	2畳用	1.6
タテ半畳用	0.25	銅管・ツインチューブ配管往復1m当り	0.1
ヨコ半畳用	0.25		

- 上記より全容量を求めて不凍液の必要量を計算します。
全容量×不凍液割合=不凍液量
(例) 外気温-14℃(不凍液割合は0.8)、金属製床暖房パネル 3枚敷設、配管片道全長2mの場合
全容量：1.7L(ストーブ)+0.54L(床暖房パネル)×3+0.1L(配管)×2=1.7+1.6+0.2=3.5L
不凍液量：3.5×0.8=2.8L
- 不凍液は腐食防止のため、暖かい地域でも必ず入れてください。
- 不凍液は蒸発しません。設置時不凍液を入れたのち蒸発で水位が下がった場合は、温水暖房用補充液を補給してください。
- 循環水は温水暖房用補充液を補給した場合、6～7年を目安に入れ替えてください。水道水を補給した場合、2～3年を目安に入れ替えてください。



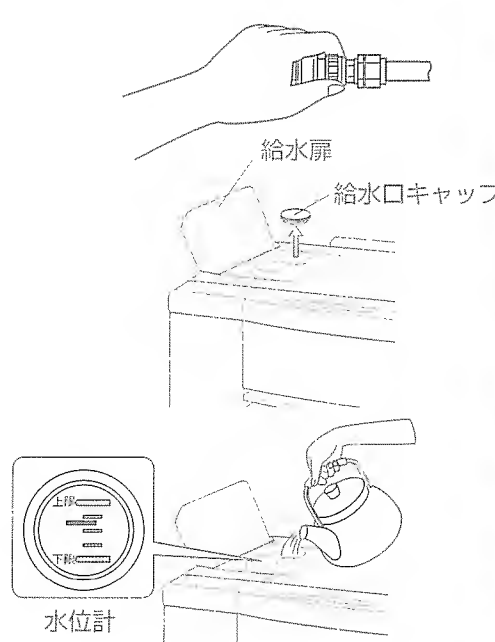
- 不凍液は高温・高濃度で高温部にふれますと燃えますので注意してください。
- 不凍液を万一誤って飲んだ場合にはすぐに吐かせて、医師の診断を受けてください。

給水および空気抜きの方法

●注意

- 床暖房パネルを接続しない場合でも、ストーブ後面の循環口にゴムホースを接続した後、次の要領で給水をしてください。
- 給水しないと、使用中にストーブが停止することがあります。

1. 温水配管のワンタッチカプラーが確実に接続されているか確認してください。
2. ストーブ上面の給水扉を開き、給水口キャップを外す。
3. 給水口より、循環水を水位計の「上限」まで入れる。



- 表示部に「JPon」が表示されます。○午前 ○午後 ○冬温 ○時刻設定
- 循環ポンプが2分間運転します。
- 2分経過すると自動的に停止します。
- ポストバージ状態で床暖房ボタンを押しても循環ポンプは運転しません。ポストバージが終了するまで待つか、コンセントを抜き差しして再び床暖房ボタンを押してください。

5. 水位が減りますので、再び循環水を補給する。
 - 循環水が減らなくなり、循環する音が小さくなると空気抜きは終了です。
 - 水位が「下限」になると循環ポンプが停止しますので、再度床暖房ボタンを押して給水をつづけてください。
6. 再び床暖房ボタンを押すと循環ポンプが停止します。水位が「上限」にあることを確認してください。
 - 「上限」以上給水しますと、使用中にストーブから循環水があふれることがありますのでご注意ください。
 - 空気抜きが不十分ですと、循環水の循環する音が大きくなる場合があります。

試運転

- 試運転は使用者とご一緒に必ず行ってください。
- 詳しくは取扱説明書を参照してください。
- UFH-641UVF・・・38ページ
- FFR-631VF・・・36ページ